

## 繭絲織度と養蠶法との關係論文綜合抄録 (III)

### 總括竝に考察

勝 又 藤 夫  
横 山 忠 夫  
横 澤 正 雄

著者等は本誌第9巻第3號、第10巻第1號に於て、昭和12年1月頃迄に發表されたる繭絲織度と養蠶法との關係論文の殆ど全部のものを抄録し、且つその各部類毎に概要を録したるが、茲にその概括竝に考察をなし、以て本抄録の終末を付けんす。

### 蠶種關係部門

1. 生種と黒種との比較に於ては、黒種の方が織度幾分太き例多きも、その關係は餘り重大なるものにあらず。
2. 蠶種製造時期は、遅きものが早きものより織度幾分太き實驗例多きが如きも、之は蓋し偶然の結果なりと思惟す。
3. 次代影響としては、前代極端なる榮養障害等の爲め次代が著しく不良となりたる場合は織度を細くする傾向あるも、其他の場合には次代に影響を認めず。次代蠶の繭絲織度が前代の影響を受くるが如きことは事實上なきものと思惟す。
4. 蠶種の保護冷蔵はその完全なるもの、即ち生理を害せざるものが、その不完全なるものに比し、繭絲織度細きが如き傾向あるも、その關係は重大なるものにあらず。
5. 催青溫度及び氣流と繭絲織度との關係にて、催青溫度は適温或は稍々高目の場合織度太き傾向あるも、低温竝に過度の高温は細くなる傾向あり。催青溫度、氣流は織度に影響を認めず。要するに催青溫度及び氣流は繭絲織度に多少の影響ありとするも、重大なるものにあらず。
6. 人工孵化法と織度との間には大なる關係なきものを見るべく、假令關係ありとするも極めて僅微なるものなるべし。
7. 蠶蛹、蠶蛾の冷蔵其他雑多の蠶種關係事項の繭絲織度に及ぼす影響を認めず。

### 飼育關係部門

1. 掃立時期の早晩は春期に於ては早掃は晩掃より常に太し。夏秋期は不定なり。
2. 飼育溫度は75Fを中心とすれば稚蠶期は高目を、壯蠶期は低目を以て繭絲織度を太くす。飼育溫度は75%を中心とすれば稚蠶期は多濕に傾きたるが、壯蠶期は乾燥に傾きたるが繭絲織度太し。飼育中の氣流は繭絲織度に影響なし。
3. 稚蠶飼育法(濕布育、箱育、乾布育、密閉育、撒土育、活葉育、地下室育、覆蓋育、障子育、調氣育、地中育、安全育、水盤育、行燈育、活條育、高級育、開放育)にして概して多濕なる飼育法はその程度極端ならずして、蠶の生理を害せざるが如き場合は繭絲織度太し。但しその度甚だしく蠶作不良なる場合には繭絲織度細し。

4. 壯蠶飼育法の平飼、條桑育は普通育に比し繭絲織度細くなる傾向あり。平飼と條桑育との間には殆ど差異なし。要するに蠶の生理に支障あるが如き粗放育は細くなる傾向あり。
5. 條桑育の給桑法、條桑仕立法、給與時期等の間に於ては繭絲織度に差異を認めず。
6. 種々なる飼育形式(温床育、冷床育、活桑育、壺飼、生條育、光線利用育等)は蠶の生理を害せざるが如き場合は普通育と差なし。但し稚蠶多濕、壯蠶新鮮桑給與等の場合は繭絲織度太くなり、飼育形式不良にて蠶の生理を害したる時は却つて普通育に比し細くなる傾向あり。
7. 屋外育或は屋外條桑育の場合は普通育に比し概して繭絲織度細き傾向あり。但し飼育時期によりては何等差異なき場合あり。
8. 給桑形式の差によりて繭絲織度に差異を認めず。
6. 蠶座面積は概して廣き場合繭絲織度太し。
10. 給桑量は少き區に於て繭絲織度細し。給桑回数少き場合も同様繭絲織度細し。
11. 桑葉の硬軟關係は極端にて蠶作不良の場合は別とするも、普通軟葉區は織度太し。硬葉區は細し。
12. 桑品種は地方により、年により、飼育時期により異りて一概に論じ難し。強いて云へば島ノ内、十文字等は繭絲織度太く、市平、魯桑、鼠返等は細き傾向あり。
13. 仕立法及び收穫法と繭絲織度との間には一定の傾向を定め難し。概して新梢葉を使用する様な仕立法及び收穫法は繭絲織度太き傾向あり。
14. 肥料の種類と繭絲織度との關係はその施用法、桑の栽培法等により一定せざるが、概して人糞尿、大豆粕、堆肥等は繭絲織度太く、無肥料は細し。
15. 施肥量は多量の場合繭絲織度太く、減量或は無肥料の場合細し。
16. 日蔭桑を給與すれば繭絲織度細し。
17. 特殊不良桑(乾燥桑、冷蔵桑、藥劑撒布桑、降灰桑、柘桑、病桑、濡桑、凍害桑、泥桑、旱害桑等)を給與すれば常に繭絲織度は細し。
18. 刺戟劑接觸(煙、色光線、レントゲン、オゾン、紫外線、炭酸ガス等)は繭絲織度と大なる關係なきも、炭酸ガス濃度高き場合には繭絲織度細し。
19. 電燈照明育は繭絲織度に影響なし。
20. 蠶病豫防藥劑撒布と繭絲織度との關係は著しきものなけれども、フォルマリン、醋酸等の強烈なるもの撒布の場合は繭絲織度細し。

### 上 簇 關 係 部 門

1. 上簇溫度高き程繭絲織度細くなり、上簇濕度多き程繭絲織度太くなる傾あるも、氣流の有無は殆ど關係なし。
2. 上簇法即ち自然上簇、普通上簇の間には繭絲織度に差異なく、莖拔の有無、早晚、回数も繭絲織度に差異なし。
3. 熟蠶の熟度は進むに従ひ繭絲織度太し。綠蠶上簇は細し。
4. 簇器の種類は繭絲織度の細太に關係なし。
5. 上簇室に藥劑撒布は繭絲織度の細太に關係なきが如きも、アムモニア區は幾分太くなる傾向あり。
6. 屋外上簇は屋内上簇に比し繭絲織度幾分太き傾向あるも餘り確然ならず。(屋外上簇が低溫多濕なる時は繭絲織度太くなるべきなり)

之を要するに廣義の養蠶法と繭絲織度の細太さの關係は概要之を知り得たり。即ち蠶種關係部門は繭絲織度の細太に影響するこゝ殆ぎなし。假令影響ありとも僅微なり。飼育關係部門が繭絲織度の細太に影響するこゝ極めて大なり。その中影響の大なる事項を擧ぐれば、植立の早晚、飼育溫度(稚蠶)、蠶座面積の廣狹(壯蠶)、給桑量及び回数(壯蠶)、桑葉の硬軟(壯蠶)、桑品種(壯蠶)、(但し地方により一定せず)、肥料の多少(壯蠶)、不良桑葉(壯蠶)(日蔭桑、乾燥桑、冷蔵桑、藥劑散布桑、降灰桑、病桑、滯桑、凍害桑、旱害桑)等にして、少しく影響ありとするものは、飼育濕度、稚蠶多濕育、壯蠶飼育法(條桑育、平飼育、屋外育等)肥料の種類、桑仕立法及び收穫法、炭酸瓦斯障害、蠶病豫防劑の散布等なり。

上廢關係部門は繭絲織度の細太に關係するこゝ比較的少し。その中上廢溫度、濕度、熟蠶の熟度等は稍々關係を認め得るなり。

尙本抄録にて不確定なる事項は今後の試験により決定さるべし。

(於長野縣蠶業試験場長野本場)